

市民研究所を核とした新たな大学・地域連携

～「ため池みらい研究所」の到達点と課題～

環境人間学部

しばさき こうへい
○助教 柴崎 浩平

キーワード

地域づくりプラットフォーム、コーディネート、
市民研究所、公民学連携、地域資源管理



研究概要

農山村において、大学・地域連携に寄せられる期待は大きいですが、課題も多く指摘されてきた。一般的な課題として、コーディネーターの重要性とその育成、主体ごとで評価するポイントが異なる点などが指摘されている。コーディネーターとは、地域内外の多様な主体をつなぎ、共通の課題に対して協働できる関係を構築・促進する役割を担う人材のことであり、文化翻訳やネットワーキング、組織化などの技能が求められている。しかし、それらの技能は属人化しやすく、知識や知恵の共有は進みにくいため、コーディネートに関する共通理解が生まれにくく、後継者が育成されにくいことが課題となる。そこで本研究では、新たな大学・地域連携活動の形として、組織が連携活動をコーディネートする仕組みの可能性や課題を検討した。具体的には、研究者や市民らと設立した市民研究所（ため池みらい研究所）によるコーディネートをおこない、コーディネートの体制・内容と連携活動の成果の関係性を分析した。体制については、市民研究所を核としたコーディネートモデルを仮説的に提示・運用した。コーディネートの内容としては、場づくりやプロジェクト化および推進支援、組織内の人材育成、成果の共有などをおこなった。コーディネートの成果としては、24 のプロジェクトが実施されていること、研究所を支える若手人材の確保につながっていることなどが挙げられた。これらの成果を創出するにあたっては、市民研究所の運営に関わる人材の文化翻訳能力が向上しており、組織・個人間での重層的なコーディネートが促進されていることがポイントとして挙げられた。今後の課題としては、コーディネート力の向上に資する研修のデザインなどが考えられる。



写真 ため池みらい研究所の会議の様子

アピールポイント

公民学の連携によるアクションリサーチ（以下、AR）によって敢行された点である。AR とは、研究者がプレイヤーの一人となり、調査対象者とともに実践的な研究活動を行い、学問的な成果だけでなく、社会そのものに直接的な影響を与える点にある。筆者は、環境人間学部「エコヒューマン地域連携センター（EHC）」のコーディネーターおよび、地域資源の持続的利用に向けて市民とともに設立した「（一社）ため池みらい研究所」の理事を務めている。「ため池みらい研究所」は、2022 年 8 月に、兵庫県東播磨県民局および 3 大学（兵庫県立大学・神戸大学・京都大学）と連携協定を締結した。これら、公民学の連携基盤のもと、地域パートナーが必要不可欠となる AR によって敢行することができた。



ため池みらい研究所
HP